

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に笑顔で挨拶が出来る子 ・やってみようという気持ちを持って積極的にチャレンジする意欲がある子 ・友だちや異年齢児との関わりの中で協力して達成する経験を通して思いやりの気持ちを育む。 <p>【達成度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策の一つとして、登園時に全園児に検温を行う流れの中で、朝の挨拶や言葉を交わす機会が確立されてしっかりと顔を見合わせることで笑顔が多く見られるようになった。 ・登降園や戸外で外部の人に会った時などは元気に挨拶できている。また、何か手伝ってもらった時は感謝の気持ちが言葉で自然と出ている。 ・子どもたちの『やってみよう』を引き出し、それを実現できるよう活動を計画したことで、様々なことに挑戦しようという気持ちを持つことができた。 ・今年度はコロナ感染症対策の影響もあり、これまでの異年齢での縦割り保育が機能せず、交流もあまり出来なかったことが残念であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で自粛期間中登園していた児童の保育を異年齢合同で過ごし、職員も入れ替わりの体制となった。必要な伝達事項は連絡ボードを用いて引き継ぎをした。 ・職員会議などは密を回避するためできるだけ少人数で行い、共通フロアに各クラスの様子を付箋に記入・掲示して、園全体の状況をすべての職員で共有することを欠かさず行った。会議は少人数で行ったことが、より話やすい雰囲気作りに寄与し、小さな疑問点や意見もお互いに聞きやすかった。 ・朝夕の合同保育時に異年齢児と関わりながら過ごすことで、保育者も乳児幼児の隔たりなく子どもの様子を見ることが出来た。また、これによりクラスの様子や職員の作業の流れなどを伝え合ったり話し合ったりすることが効率よくでき、かつ園児の安全確保のために動きやすい環境づくりが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として姉妹園交流や連携園交流行事、幼保小連携校との交流など、例年通りの活動はできなかった。地域との交流イベントも予定していたものは中止となり十分なやり取りはできなかった。 ・戸外活動の際には、地域の方々に話しかけられたときあいさつや会話などのコミュニケーションを積極的に図った。園児たちにもこやかに触れ合うことが出来た。 ・コロナ禍において保護者を孤立させないような多方面からの援助の必要性がより強く感じられた。公園や散歩の際に居合わせた親子に明るく挨拶をして子どもが関わろうとする様子を見守り、その際に少しでも会話ができるように配慮した。地域の方々と積極的に言葉を交わすことでお互いに気持ちよく生活できると思う。 ・直接的な人との関わりではないが、戸外活動で様々な場所や職業に興味を持てるよう言葉かけをし、地域のことを知る機会を設けていた。 ・近隣のコンビニの季節の塗り絵展示に参加してもらい、楽しみながら地域に協力する喜びを味わうことが出来た。

この評価のつけ方：

施設長・主任による各職員への聞き取り